

小児歯科学	実習
-------	----

《担当者名》 教授/齊藤 正人 准教授/広瀬 弥奈 講師/倉重 圭史  
 助教/福田 敦史 助教/榊原 さや夏 助教/藤田 裕介 助手/蓑輪映里佳  
 非常勤講師/中谷 光 非常勤講師/長沼 聖人 非常勤講師/上津 誠司 非常勤講師/野呂大輔  
 非常勤講師/野呂大輔 非常勤講師/村井 雄司 非常勤講師/岩寺 環司 非常勤講師/池田 元久  
 非常勤講師/庄内 喜久子 非常勤講師/鈴木 かい 非常勤講師/近藤有紀

## 【概要】

本科目は、ラバーダム防湿法、予防填塞法、フッ化物歯面塗布法、乳歯の歯冠修復法、乳歯の歯髄処置法、保険装置製作の基本的技術や意義について学習する。

## 【学修目標】

- 一度に多数歯のラバーダム防湿法を実施する。
- 乳歯・幼若永久歯の小窩裂溝部に予防填塞を実施する。
- 乳歯の歯髄炎の処置法の種類、適応症、術式を説明する。
- 乳歯の支台歯形成、既製乳歯冠の装着を実施する。
- 幼若永久歯の支台歯形成、既製金属冠の装着を実施する。
- 乳前歯部のコンポジットレジンジャケット冠修復を実施する。
- クラウンループ保険装置の製作及び装着を実施する。
- 小児の保護者に保険装置の目的、適応症、留意点を説明する。
- 齲蝕予防におけるフッ化物の応用方法を説明する。
- フッ化物の歯面塗布を実施する。
- 小児の保護者に適切なブラッシング法を指導する。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	課題1 ラバーダム防湿法 ・ ラバーダム防湿法  課題2 予防填塞法 ・ 予防填塞法	マルチメディア(PC)を介して、小児の歯科治療で必要不可欠なラバーダム防湿の術式を学び、マネキンDR-11と小児用顎模型において実施できる。 (F-3-1)- ) 「小児歯科学基礎実習ノート」 マルチメディア(PC)を介して、乳歯・幼若永久歯の小窩裂溝部に予防填塞を行うための基礎的な知識、術式を学び、マネキンDR-11と、小児用顎模型において実施できる。 (F-3-6)- ) 「小児歯科学基礎実習ノート」	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 福田 敦史 榊原 さや夏 藤田 裕介 蓑輪映里佳 中谷 光 長沼 聖人 上津 誠司 野呂 大輔 村井 雄司 岩寺 環司 池田 元久 庄内 喜久子 鈴木 かい 近藤有紀
2	課題3 フッ化物応用法 ・ フッ化物歯面塗布法	マルチメディア(PC)を介して、小児にフッ化物歯面塗布を行うための基本的態度、知識、術式を学び、マネキンDR-11と小児用顎模型において実施できる。 (F-3-6)- ) 「小児歯科学基礎実習ノート」	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 福田 敦史 榊原 さや夏 藤田 裕介 蓑輪映里佳 中谷 光 長沼 聖人 上津 誠司 野呂 大輔 村井 雄司 岩寺 環司

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
			池田 元久 庄内 喜久子 鈴木 かい 近藤有紀
3	課題4 乳歯歯髄切断法 ・ 水酸化カルシウム断髄法	マルチメディア(PC)を介して、乳歯の歯髄処置の中で、比較的適応頻度の高い歯髄切断法であるCa(OH) <sub>2</sub> 法の適応症、術式を学び、マネキンDR-11と小児用顎模型において実施できる。 (E-4-2)- ) 「小児歯科学基礎実習ノート」	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 福田 敦史 榊原 さや夏 藤田 裕介 蓑輪映里佳 中谷 光 長沼 聖人 上津 誠司 野呂 大輔 村井 雄司 岩寺 環司 池田 元久 庄内 喜久子 鈴木 かい 近藤有紀
4	課題5 既製金属冠による歯冠修復法 1. 乳歯冠用支台歯形成 2. 既製乳歯冠の調整	マルチメディア(PC)を介して、既製乳歯冠による修復を行う際の支台歯形成、既製乳歯冠の調整法についての理論と術式を学び、マネキンDR-11と小児用顎模型において実施できる。 (E-4-2)- ) 「小児歯科学基礎実習ノート」	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 福田 敦史 榊原 さや夏 藤田 裕介 蓑輪映里佳 中谷 光 長沼 聖人 上津 誠司 野呂 大輔 村井 雄司 岩寺 環司 池田 元久 庄内 喜久子 鈴木 かい 近藤有紀
5	課題5 既製金属冠による歯冠修復法 1. 既製金属冠用支台歯形成 2. 既製金属冠の調整	マルチメディア(PC)を介して、既製金属冠による修復を行う際の支台歯形成、既製金属冠の調整法についての理論と術式を学び、マネキンDR-11と小児用顎模型において実施できる。 (E-4-2)- ) 「小児歯科学基礎実習ノート」	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 福田 敦史 榊原 さや夏 藤田 裕介 蓑輪映里佳 中谷 光 長沼 聖人 上津 誠司 野呂 大輔 村井 雄司 岩寺 環司 池田 元久 庄内 喜久子 鈴木 かい 近藤有紀
6 7	課題6 クラウンループ保隙装置による保隙 1. 作業用模型の作製 2. クラウンループ保隙装置の設計 3. クラウンループ保隙装置の製作 4. クラウンループ保隙装置の調整	マルチメディア(PC)を介して、保隙装置の1つであるクラウンループ保隙装置についての理論と術式を学び、マネキンDR-11と小児用顎模型において実施できる。 (E-4-2)- ) 「小児歯科学基礎実習ノート」	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 福田 敦史 榊原 さや夏 藤田 裕介

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
			齋藤 映里佳 中谷 光 長沼 聖人 上津 誠司 野呂 大輔 村井 雄司 岩寺 環司 池田 元久 庄内 喜久子 鈴木 かい 近藤 有紀
8	課題7 コンポジットレジン冠による歯冠修復法	マルチメディア(PC)を介して、コンポジットレジン冠の調整法についての理論と術式を学び、マネキンDR-11と小児用顎模型において実施できる。 (E-4-2)- ) 「小児歯科学基礎実習ノート」	齋藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 福田 敦史 榊原 さや夏 藤田 裕介 齋藤 映里佳 中谷 光 長沼 聖人 上津 誠司 野呂 大輔 村井 雄司 岩寺 環司 池田 元久 庄内 喜久子 鈴木 かい 近藤 有紀
9 ) 12	課題8 可撤保隙装置による保隙 1. 作業用模型の作製 2. 可撤保隙装置の設計 3. 可撤保隙装置の製作 4. 可撤保隙装置の調整	マルチメディア(PC)を介して、保隙装置の1つである可撤保隙装置についての理論と術式を学び、マネキンDR-11と小児用顎模型において実施できる。 (E-4-2)- ) 「小児歯科学基礎実習ノート」	齋藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 福田 敦史 榊原 さや夏 藤田 裕介 齋藤 映里佳 中谷 光 長沼 聖人 上津 誠司 野呂 大輔 村井 雄司 岩寺 環司 池田 元久 庄内 喜久子 鈴木 かい 近藤 有紀
13 ) 14	課題9 保隙装置の説明  課題10 ブラッシング指導 ・ 指導を行うために必要な医療面接 ・ 保護者へのブラッシング指導	マルチメディア(PC)を介して、保隙装置について患者の保護者にわかりやすく説明するために必要な基本的な態度、技能及び知識を学び、実施できる。 (E-4-2)- ) 「小児歯科学基礎実習ノート」  マルチメディア(PC)を介して、保護者に小児の適切なブラッシング指導をするために必要な基本的な態度、技能及び知識を学び、実施できる。 (E-1-6)-(2)- ) 「小児歯科学基礎実習ノート」	齋藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 福田 敦史 榊原 さや夏 藤田 裕介 齋藤 映里佳 中谷 光 長沼 聖人 上津 誠司 野呂 大輔 村井 雄司 岩寺 環司 池田 元久 庄内 喜久子 鈴木 かい

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
			近藤有紀
15	実習修了試験及び提出	実習修了試験の実施、検印表と製作物の提出	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 福田 敦史 榊原 さや夏 藤田 裕介 袁輪映里佳 中谷 光 長沼 聖人 上津 誠司 野呂 大輔 村井 雄司 岩寺 環司 池田 元久 庄内 喜久子 鈴木 かい 近藤有紀

#### 【授業実施形態】

##### 面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

#### 【評価方法】

[小児歯科学 各論（講義）評価方法] 定期試験（100%）

[小児歯科学（実習）評価方法] 実習修了試験70%、実習製作物10%、小テスト10%、実習態度10%

[判定法] 講義と実習の評価の合計が60点以上を合格とする。

#### 【教科書】

「小児歯科学基礎実習ノート」小児歯科学分野編

「小児歯科学ベーシックテキスト」永末書店

「小児歯科学クリニカルテキスト」永末書店

「小児歯科学基礎・臨床実習」医歯薬出版

#### 【学修の準備】

各実習課題の項目について「小児歯科学基礎実習ノート」、「小児歯科学ベーシックテキスト」、「小児歯科学クリニカルテキスト」、「講義プリント」を事前に熟読し、当日の実習に支障をきたすことのないようにすること。指定した教科書の項目を事前に必ず読んでおくこと。（45分）

#### 【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

北海道医療大学歯学部歯学科の教育目標に基づき、厳格な成績評価を行い、要件を満たした者に所定の単位を与えます。1. ここから記載人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を修得している（専門的実践能力）。

2. 「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

3. 疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を身につけている（自己研鑽力）。

4. 多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる（多職種が連携するチーム医療）。

5. 歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけている（社会的貢献）。

#### 【実務経験】

齊藤正人（歯科医師）、広瀬弥奈（歯科医師）、倉重圭史（歯科医師）、福田敦史（歯科医師）、榊原さや夏（歯科医師）、藤田裕介（歯科医師）、袁輪映里佳（歯科医師）、中谷光（歯科医師）、長沼聖人（歯科医師）、上津誠司（歯科医師）、野呂大輔（歯科医師）、村井雄司（歯科医師）、岩寺環司（歯科医師）、池田元久（歯科医師）、鈴木かい（歯科医師）、近藤有紀（歯科医師）

#### 【実務経験を活かした教育内容】

小児歯科学とは、小児の口腔機能の正常な発育を図るために、これを障害する異常や口腔疾患の予防と治療を行い、健全な機

能をもつ総合的咀嚼器官を育成し、小児の全身的発育と保健に寄与する科目である。多くの実務経験を背景とした診療技術、効率性を提示することで、優れた教育効果が期待できる内容となっている。